

2018年 7月 2日

学部生・大学院生 各位

国際教育交流課

スタンフォード日本センターでの英語講義受講生

【2018年秋学期生】募集について

スタンフォード日本センターStanford Japan Center(以下 SJC)は、米国スタンフォード大学が運営する教育機関です。同志社大学今出川キャンパスにあり、例年、スタンフォード大学から約 35 名の学部生が参加し、講義は日本の政治、経済、宗教、文化、科学等、幅広く網羅されており、文系理系を問わず参加できます。スタンフォード大学本校から赴任する教授や関西の諸大学の研究者が講義を担当します。

京都に居ながら、米国本校で提供されるのと同等の講義を受け、米国の大学生と共に学んで交流し、日本の理解を深める貴重な機会です。下記の通り、SJC が提供する英語講義の受講を希望する京都大学学生を募集しますので、皆さんの応募をお待ちしています。

本講義は審査のうえ、所属学部・大学院から単位として認定される場合があります。詳細は3. 諸留意点の(7)を参照してください。

記

1. 応募要項

※講義はすべて英語で行われます。米国の学生と同様の課題が課せられ、講義への積極的な参加が求められます。登録者は京都大学の代表としてスタンフォード大学の講義に参加します。学期途中での受講取り止めや無責任な講義欠席は認められませんので、よく考えた上で応募してください。

(1) 募集人数：4名程度（1講義につき本学学生の参加は2名程度とする。）

(2) 応募資格

- ① 2018年度後期に本学に在籍する学部生・大学院生（休学中の者は応募不可）
- ② 日本及び日本語に関する相当の知識を有する者
- ③ TOEFL iBT 79 又は IELTS 6.0 以上の英語能力を有する者
- ④ 受講希望科目についての基礎知識を有する者

2. 日 程（※は出席必須）

応募締切	2018年7月17日（火）12：00
面接（※）	2018年7月19日（木）12：10～12：50 及び 18：15～19：30
	2018年7月20日（金）12：10～12：50
合格者説明会（※）	2018年7月30日（月）12：10～12：50
オリエンテーション	2018年9月26日（水）または9月27日（木）時間未定
授業期間	2018年10月1日（月）～12月11日（火）

3. 諸留意点

- (1) 受講料は無料です。教科書・参考書の費用は受講生各自が負担してください。
- (2) 講義は SJC（同志社大学今出川キャンパス内明徳館）で行います。本学吉田構内から自転車で15分ぐらいのところ です。
- (3) 学生教育研究災害傷害保険及び学生生活総合保険（生命共済・学生賠償責任保険）未加入者は受講期間中の加入が必須です。
- (4) 今学期に提供される科目は、別紙「授業内容」の通りです。この中から希望の科目を選んで応

- 募してください。
- (5) 応募はオンライン申請です。「KCJS/SJC 応募方法・手順について」に従って手続きしてください。申請書、推薦書ワードデータは京都大学ウェブサイトからダウンロードできます。
 - (6) 京都大学及び SJC で書類選考と面接を行います。
オリエンテーション～授業期間終了までの間に就職活動中の場合は、原則として申請を避けてください。
 - (7) 科目登録・単位認定に関する注意事項
 - 1) 本講義は、2018 年度後期科目*です。大学が一括して履修登録を行いますので、KULASIS 等への登録手続は不要です。
(*所属学部・研究科によって単位認定時には前期・後期の区別がない場合があります)
 - 2) 京都大学及び SJC の書類、面接等による選考を経て許可を得た者のみ登録を行います。
 - 3) 単位認定について
 - ①参加が決まった学生は、「協定に基づく交換留学等における単位認定に関する手続について」にしたがって、所属学部・研究科に単位認定の審査を申請することになります。詳細は合格者説明会で説明します。
 - ②単位として認められる場合は、(1) 所属学部・研究科の単位、(2) 全学共通科目の単位のいずれかとなりますが、学年、所属学部・研究科により異なりますので、単位認定に関する問い合わせは、下記【本件問合せ先】までお願いします。
 - ③SJC から単位は付与されません。
 - ④本講義受講にあたっては、必ず単位認定審査をする必要があります。単なる聴講は認めません。
 - 4) 2018 年度後期に本科目と他科目との時間割が重複した場合は、いずれか一方の履修しかできません。確認のため、受講中科目一覧 (KULASIS) のコピー提出が必要です。出願の際には十分留意してください。
 - 5) 履修を学期途中で取りやめることはできません。
 - (8) SJC 及び KCJS (京都アメリカ大学コンソーシアム) の英語講義の聴講・受講経験者も応募できます。ただし、聴講・受講経験のある講義には応募できません。

※聴講経験者の感想を以下の URL に掲載していますので、参考にして下さい。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/international/program/kcjssecti/scti.html>

(京大 HP > 国際交流・留学支援 > 京大生向けの国際的な教育プログラム > KCJS/SJC 講義の聴講 > SJC について)

<参考>

SJC (旧 SCTI) は、米国スタンフォード大学の日本留学プログラムとして 1990 年に誕生しました。日本との関わりを持つ上で必要となる知識・資質を身につけたアメリカの若い世代の育成を目的としています。参加学生の専攻は工学、自然科学、経済学、政治学、国際関係学等多岐にわたっていますが、技術系専攻の学生が多いのが特徴です。日本語教育にも力を入れており、来日前にはスタンフォード大学本校において日本語授業の履修が義務づけられている他、来日後は毎週 8 時間の日本語の授業が必修科目となっています。2006 年夏より同志社大学内に拠点を定めています。

所在地：京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町 601 同志社大学明德館 2 階

【本件問合せ先】 国際高等教育院 長山浩章 教授・河合淳子 教授
教育推進・学生支援部国際教育交流課 滝本 (Tel:075-753-5407)
kcjs-sjc.kyodai@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

講義時間割
スタンフォード日本センター2018年秋学期
(2018年10月1日～2018年12月11日)

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
1					
2					
3 13:10 - 14:40	Buddhist Visual Arts (Prof. Ludvik)				
4 14:55 - 16:25	Queer Culture and Life (Prof. Itani)			Buddhist Visual Arts (Prof. Ludvik)	
5 16:40 - 18:10	Queer Culture and Life (Prof. Itani)				

- ・同一科目が1週間に2回ある場合は両方の講義に出席する必要があります。片方だけの講義出席は認められません。
- ・期間中、各講師の都合によりクラス時間の変更等が生じる場合があります。
- ・金曜日・週末にはクラスのField Tripが行われる場合があります。

授業内容

Stanford Program in Kyoto Course Offerings – Autumn Quarter 2018

1. A Journey into the Buddhist Visual Arts of Japan by Prof. Catherine Ludvik

Buddhism has had an enormous impact on the arts and culture of Japan, and nowhere is this more visibly manifest than in the ancient capital of Kyoto, renowned for its numerous temples and their visual arts. Amidst the ideal setting of this old, traditional, yet vibrantly contemporary city, we will explore the historical as well as modern Buddhist visual arts of Japan, in the context of the ritual, devotional, and meditative traditions of various sects of Japanese Buddhism. Focusing on selected historical temples and their icons, we will study image production, iconography, representational strategies, as well as the ritual and visual functions of Buddhist sculpture and painting. We will also examine architectural and landscape elements of temple layouts, within which iconographic programs are framed, images are enlivened, and practices centered on these devotional and ritual art works are performed. Drawing on the magnificent visual arts of Kyoto and nearby Nara, classes will be conducted also at temples as well as museums.

A historical approach will reveal how sound evolved into an important medium for artists over the course of recent decades, and as it continues to grow as an artistic practice both as a single medium or in combination with video, sculpture or performance. Key works by historical and contemporary artists will be presented and critically examined.

The basics of acoustics, analog and digital sound production will be presented that will enable students to progress in their understanding of the medium and independently develop works for public presentation. Basic software tools and techniques will be taught for sound recording, processing and presentation as well as how to build simple circuits that can be used for sound based objects.

2. Queer Culture and Life in Japan by Prof. Satoko Itani

“Queer,” writes Eve Sedgwick, “refers to the open mesh of possibilities, gaps, overlaps, dissonances and resonances, lapses and excesses of meaning when the constituent elements of anyone’s gender, of anyone’s sexuality aren’t made (or can’t be made) to signify monolithically.” Or according to David Halperin, queer “describes a horizon of possibility whose precise extent and heterogeneous scope cannot in principle be delimited in advance.”

Yet, queer is not a term meant only to fantasize a utopian “somewhere.” It has been used to question and challenge homophobia, sexism and racism, under which run the ideas of “heteronormativity.” Thus, by paying particular attention to the politically critical potential of

“queer,” this course explores queer lives and cultural practices in Japan through film, literature, theater, art, and personal testimonies. We will look at queer culture as a “lived experience” and queer life as a “cultural experience” at the same time. What does it mean to be queer in Japan? How does the term “queer” signify differently from a US context? What is the critical potential of “queer” and under what conditions can it become potential? And what is the possible danger or risk of mobilizing the term/concept of queer? We will tackle these questions by closely analyzing a wide range of texts and events. This class is designed for students interested in cultural studies, feminism, queer studies, gender and sexuality studies, LGBT activism and community in Japan.